

(3) 職業人としての教育専門部会

① 研究の基本的な考え方とその手順

ア 基本的な考え方

本部会では、職業人として今後取り組む必要があると思われる次の六つの視点から接近し、討議を重ねながら委員相互の共通理解を図り、基本的な考え方を打ち出した。

(ア) 職業観や職業意識の高揚を図る

職業人には、物を作ったり、作った物を供給したりする人など大きなシステムの中で働く人や個人で手工芸、芸術的家内工業的なもので働いている人、また、社会が必要としているサービスを供給する人などがいる。これらの人たちは、その働くという活動を通して職業人としての誇りをもってくると思われるが、その仕事が社会や国家とどのような関係になっているのかを知ることによって、より職業意識に目覚め、自己啓発を促すようになってくる。一方では、その労働意欲を受け止める体制やその有する技能・資格に見合った社会的評価を受ける環境づくりが必要になってくる。

(イ) 技術開発について

発達段階に応じた技術教育を行う必要があるが、小・中学校の段階では、作る楽しみを経験させながら職業人としての意識の芽を育てていき、上級の学校へいくに従って系統的な技術教育をしていくことである。現在、日本の各種科学技術は、かなりレベルが高いが、さらに技術革新を進めることによって住みよい社会を実現しなければならない。

(ウ) 資源開発と活用

資源の少ない日本においては、省資源と新しいエネルギーの開発が必要であり、このことを正しく認識し、物を大切に、しかも有効に使うことを日常生活の中で習慣づける必要がある。また、オートメーションによる大量生産方式が職場における生きがいを失わせる結果をまねいている状況から、そこで働く人たちの就業意識の確立が必要になってきている。このことは、都市と農村とで意識の格差となって現れていることを考慮しなければならない。そして、生産能率との調和を考え、日常生活において意識の変革を図る必要がある。

(エ) 国際社会における産業の果たす役割

資源の少ない日本は、貿易によって産業が成り立っている現状から、国際社会に

おける産業の果たす役割を正しく認識し、各國が相互に関連して世界経済を安定させる必要性を理解しなければならない。現在、企業に勤める人々は、どちらかというとその企業への忠誠心だけが先行している状況にあるので、外國の風俗、習慣を理解し、国際的なマナーを身につけたり、自由貿易を保障するための世界平和を志向する市民性を育てたりする必要がある。

(オ) 公告への認識

産業公告について、産業自体が公告を出さないように最善をつくすことが大切である。そこで、足利市において産業公告にはどんなものがあるかについての認識をもつ必要がある。

(カ) 女性、高齢者、心身障害者の職業人としての立場

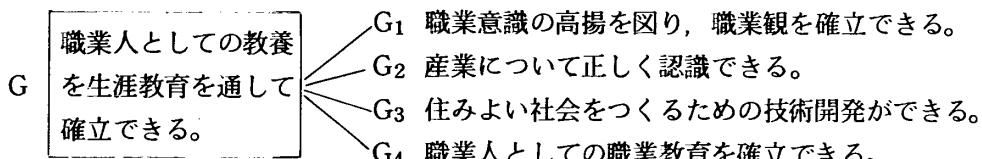
女性が職場に進出するのに、我が国では種々の障害がある。今後、職場に女性の進出を考えられるので、女性の社会参加への条件整備と女性を対象とした職業教育を進める必要がある。また、高齢者や心身障害者についても、職業人として生活していくような職業教育を進めることによって生きがいにつながるようにすることが必要である。

イ 手 順

職業人としての目標を「職業人としての教養を生涯教育を通して確立する。」と設定し、これを大前提にして目標分析の視点、調査のねらいを定めた。

(ア) 調査項目の決め方

職業人として教育目標を基に、目標分析をして、その下位目標の要素をさぐり出し、この要素を基に調査項目を設定した。



(イ) 目標分析の視点

教育とは、期待するものでなく、実現するものであるという視点に立って目標分析を試みた。

- 将来を展望して、理想的な未来をつくるための目標を設定する。
- 目標行動に到達させるため、細かい指示を与えるなければならない。

IV 足利市の教育目標設定の実際

- 目標行動に近づくように刺激を与えていく、望ましいものになるように改善していく。（ステップをふむ）

ウ 第1次調査のねらいとその内容

(ア) 調査のねらい

- 職業意識と職業観をどのように考えているか。
- 産業についてどのような認識をもっているか。
- 職業教育の必要をどのように考えているか。

これらの調査を通して、職業人として望ましい姿の実態をは握して、本部会としての教育目標設定の基本資料としたい。

(イ) 調査の基本内容

項目	下 位 項 目
に職業意 する・ と職業 観	<ul style="list-style-type: none">• 職業人としてのプライドをもつ条件• 職場でよりよい人間関係を確立するための条件• 職業に対する家族の理解• 職場の経営内容の理解• 職場が果たす社会への役割の理解
産業に 関する こと	<ul style="list-style-type: none">• 合理的な日常生活を営む条件• 技術革新が未来の日常生活を豊かにすることの理解• 的確な情報処理• 資源開発の必要性の理解• 資源の有効な活用の理解• 世界経済安定の条件• 産業先進国の役割の理解
す職業 る業 こ教 と育 に 関	<ul style="list-style-type: none">• 経験の少ない者の企業内教育• 経験の多い者の企業内教育• 離転職者の職業教育• 女性の職業教育• 心身障害者の安定した職業生活の条件
る余 こ暇 と 関 す	<ul style="list-style-type: none">• 余暇の過ごし方• 余暇時間、日数の充足度の実態• 余暇に対する必要感• 余暇活動の目的、機会、種類の実態

(ウ) 調査結果の概要

○ 足利市民が重視している内容

- 1次調査の結果、市民が重視している主な内容をあげると次の通りである。
- ・ 職場でよりよい人間関係を確立する条件として、仕事の上で助け合い、協力できる態勢づくりと経営者または上司の暖かで、きめ細かな配慮をすること。
 - ・ 職場の内容をよく知るためには、経営者の経営方針を知ること。
 - ・ 合理的な日常生活を営むためには、製品を大切に使用すること。
 - ・ 情報を的確に処理して、見通しを立てるためには、情報の正誤判断すること。
 - ・ 資源を活用し、その有効な活用をするためには、最小量で最大効果のある製品をつくりだすこと。
 - ・ 各国の産業が相互に関連して世界経済を安定させるためには、貿易によって共存共栄ができること。
 - ・ 企業内教育において、経験年数の少ない者は能力・適性に応じた教育が必要
 - ・ 企業内教育において、経験年数の多い者は職種に応じた専門教育が必要
 - ・ 女性の職業教育では、女性の特性を生かした技能や資格を身につけることが必要
 - ・ 心身障害者、精神薄弱者などが安定した職業生活を営むことができるようになるためには、障害の程度に応じた職業訓練が受けられることと、雇用の安定が図られること。

○ 足利市民の関心が低い内容

1次調査の結果、市民の関心の低い主な内容をあげると次の通りである。

- ・ 職業人としてのプライドをもつ条件として、仕事に見合った賃金が得られることと社会に認められる職業であること。
- ・ 家族が職場のできごとを話し合うこと。
- ・ 敬老の日、父の日、母の日等を生かしたひとときをもつこと。
- ・ 家族のだれかが生計者の職場の様子の話しができること。
- ・ 合理的な日常生活を営むためにカタログの正しい見方ができること。
- ・ 産業の先進国が発展途上国に援助を与えて生活水準を向上させるためには、郷土の産業の国内における役割を知ることや職業人として国際的職業意識をもち、自己の所属する産業の役割を知ること。
- ・ 企業内教育において、経験年数の少ない者の職業教育は学歴に応じた教育を受けること。
- ・ 企業内教育において、経験年数の多い者の職業教育は一般教養を身につける

IV 足利市の教育目標設定の実際

こと。

- 再就職を円滑にするため、離転職者の職業教育は、検定職種の拡充を図ることや人材確保のための登録が必要であること。

○ 特徴ある項目数一覧

項目	問い合わせ	重視している項目数	関心の低い項目数
職業意識・職業観に関すること	20	3	4
産業に関すること	28	4	4
職業教育に関すること	20	4	4

エ 第2次調査のねらいとその内容

(ア) ねらい

1次調査において、職業人として望ましい姿の実態を把握した。そこで、この結果に基づき、市民の職業人としての教育に対する実態や人間像を明らかにし、本部会としての教育目標設定の基礎資料とする。

(イ) 調査の基本内容

- 1次調査の結果、市民の意識の高い「仕事の上で助け合い、協力の態勢づくり」の実態について、その充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の低い「生計者の職業について、家族の理解と感謝の気持ち」について充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の高い「職場の人たちが経営方針、安全性をよく知っているか。」の実態について、その充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の低い「職場が社会の向上発展に寄与しているか。」について、その関心度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識のやや高い「職業人として、プライドをもっているか。」について、その実態の充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の高い「製品の使い方」と「使う製品の買い方」の実態の充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の高い「情報の正誤判断」のための情報の収集について、その実態の充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の高い「資源の有効な利用」のための条件として「最小量で最大効果のある製品つくり」の必要性に関連して、そのための技術開発の必要性をみる。

- 1次調査の結果、市民の意識の高い「産業廃棄物を処理できる製品の生産」から、「産業廃棄物の再利用」の実態の充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の高い「各国との共存共栄」についての充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の高い「発展途上国への技術援助」の実態の充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の高い「能力・適性に応じた教育」について、就職者が能力・適性に応じて就職しているか、その実態の充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識のやや高い（女性は高い）「女性の特性、技能の取得」について、その実態の充足度をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の低い「離転職者の職業教育を進める上で、検定職種の拡充と人材確保」の必要性について再度意識をみる。
- 1次調査の結果、市民の意識の高い「心身障害者、精神薄弱者の職業訓練」について、この人たちが実際訓練を受けているかの実態の充足度をみる。

(ウ) 調査結果の概要

- 実態が高いと判断された項目
 - ・ 職場では、仕事の上で助け合い、協力態勢ができていること。
 - ・ 生計者の働くことについての苦労を知り、感謝の気持ちをもっていること。
 - ・ 足利市の就職者は、自分の職業にプライドをもっていること。
 - ・ 最小量で最大効果のある製品を作る努力の必要（意識の実態）
 - ・ 就職者は、「最小量で最大効果のある製品を作る」ために技術開発を重視すること（意識の実態）
 - ・ 女性が職業生活を営むためには、女性の特性を生かした技能や資格を取得していること。
 - ・ 離転職者の就職を円滑にするための検定職種の拡充と人材確保は重要であること。（意識の実態）
- 実態が低いと判断された項目
 - ・ 情報の正誤判断のために情報の収集をすること。
 - ・ 産業廃棄物が円滑に再利用されていること。
 - ・ 貿易によって共存共栄を図っていること。

オ 面接調査のねらいとその内容

IV 足利市の教育目標設定の実際

(ア) 調査のねらい

2次調査の回答結果の考察をより深め、教育目標として取り上げるときの参考資料とする。

- 2次調査において「どちらともいえない」と反応したものが多い項目
 - 1次調査、2次調査において市民の関心が高いのに充足度が低い項目、または、その反対の項目
- などについて取り上げ、有効な資料を得る。

(イ) 面接内容

- 職場が社会の向上発展に寄与していることがわかるために、職場の人たちは、その経営方針や安定性を知っているか。
- 職業人としてプライドをもつために、能力・適性に応じて就職しているか。
- 産業について正しく認識するために、技術開発の必要性を教育課題として取り上げるべきかどうか。

(ウ) 調査結果の概要

- 職場の人たちが経営方針、安定性についてよく知っているかについて
 - 決算報告や事業計画の発表の機会を年1回持っている。その他、月1回会議を開いて周知を図っている。
 - 経営目標を大きく抽象的にあげるのでなく、具体的に年度の売り上げ目標、節減の在り方、新製品の開発等のように観点をあげている。
 - 安定性については、関心はあるが程度の問題で、遠い将来まで見通すことはむずかしい。
- 能力・適性に応じて就職しているかについて
 - 就職者と企業・事業所とでは違っている。
就職者——能力・適性に応じて必ずしも就職していない。
企業・事業所側——能力・適性に応じて採用しているつもりである。
 - 就職難になると、必ずしも適性ばかり考えていられない。選べない実態である。
 - 企業内では、各職場において能力・適性を考えて配置している。
 - 今は営業の世の中になってきつつあり、製品のできる根本から知っていかなければならぬ。したがって、セールスエンジニアを社内教育で育成している。
- 技術開発の必要性について
 - 一般に、技術開発は企業において不可欠であり、これから日本は資源がないから技術で生きていかねばならない。ただし、技術開発といっても無から有を生み出せない。どこまでの開発かが問題である。例えば、安全で安い製品を

作り出すための技術開発、品質の向上を図るための技術開発等が考えられる。

- 生涯教育の立場から、小さい時から技術教育を重視すべきである。

カ 教育課題摘出の観点並びにその方法

教育課題の摘出に当たって、1次調査及び2次調査による足利市民の意識や実態に基づき、足利の風土に根ざした地域性のあるものにする。それを一般性、普遍性をもった一般教育課題の角度から検討した。そして、さらに職業人としての教育専門部会の立場からの考察を加えながら摘出した。

(ア) 調査の結果から

1次調査において職業意識と職業観、産業についての認識、職業教育、余暇について市民の考え方をとらえ、2次調査で意識の高かった項目、低かった項目について市民の実態を面接調査を加えながら明らかにした。

なお、これらの1次調査、2次調査、面接調査等の結果から、足利市民の意識や実態を浮きぼりにし、次のような角度から整理し、教育課題摘出の資料とした。

- | | |
|-------|---------------------------|
| A タイプ | 市民の意識は高く、実態も充足されている。 |
| B タイプ | 市民の意識は高いが、実態は充足されていない。 |
| C タイプ | 市民の意識は低いが、実態は充足されている。 |
| D タイプ | 市民の意識も低く、実態も充足されていない。 |
| E タイプ | 市民の意識や実態について、顕著な特徴が見られない。 |

(イ) 一般教育課題から

足利市の教育課題摘出については、足利市民の意識や実態からだけでなく、広く、一般性、普遍性をもった教育の課題をふまえた。そこで、国のレベルの視点から、社会教育審議会答申の「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」世界に広く認められているハヴィガースト氏等の教育学者の考え方を基にした一般教育課題を摘出した。この一般教育課題の網目に、市民の意識や実態から摘出した地域性のある教育課題を通すことによって、一般性、普遍性を兼ね備えた「足利市の教育課題」摘出を考えた。

(ウ) 教育課題一覧

発達期	タイプ	教 育 課 題
青年期	E	自己の能力・適性に合った職業選択が行われる必要がある。
青年後期	A	各職場で助け合いや協力する態勢づくりに努める必要がある。
	B	自分の職場の経営内容をよく理解する必要がある。

IV 足利市の教育目標設定の実際

発達期	タイプ	教 育 課 題
青年後期	B	自分の仕事をはじめてやることが社会の向上発展に寄与していることを認識する必要がある。
	B	能力・適性に応じた職種に就けるようにする必要がある。
	B	能力の開発を図る必要がある。
	B	障害の程度に応じた技能や資格を取得する必要がある。
	A	最小量で最大効果のある製品を作る必要がある。
	B	資源は有限であることの認識を深め、資源の開発と育成を図り、資源が産業の発達に影響していることの理解を深める必要がある。
	B	生活目的に合った製品を大切に、有効に使用する態度の育成を図る必要がある。
	B	廃棄物を円滑に処理できる製品を生産する必要がある。
	B	不用になった製品の再利用を図る必要がある。
	B	貿易によって各国が共存共栄を図る必要がある。
青年後期 ～ 壮年期	B	技術援助により産業の振興を図る必要がある。
	B	心身障害者のための雇用の安定を図る必要がある。
	C	製品の特質と技術開発の関係について認識を深める必要がある。
	D	仕事の質や量による給与体制の確立を図る必要がある。
	D	公害になる製品の生産は、やめる必要がある。
	D	郷土の産業の国内における役割を知り、職業人としての国際的職業意識をもつ必要がある。
	E	技能や熟練度を正しく認め、学歴にとらわれず本人の能力を正しく評価する必要がある。
	E	技術革新は、豊かな創造性によって生まれるものであるとの認識を深める必要がある。
	E	生活用品の中から最適なものを選択する能力を養う必要がある。
	E	産業問題を世界的視野に立って正しく見つめる必要がある。
青年後期 ～ 高齢期	A	女性の特性を生かした技能や資格を身につける必要がある。
	D	女性の再就職を円滑にする必要がある。
壮年前期	B	職種に応じた専門的知識・技能の充実を図る必要がある。
	D	専門的知識のみにとらわれず、幅広い教養を身につける必要がある。
壮年期	A	経営者や職場の上司は、人間関係を円滑にするための配慮をする必要がある。

発達期	タイプ	教 育 課 題
壮年期	B	情報の収集、整理、選択を的確に行い、正誤判断のできる能力を育成する必要がある。
	C	生計者は自分の仕事について家族に理解させる必要がある。
壮年後期～高齢期	B	離転職者の再就職を円滑にするために、技能や技術を習得する必要がある。
高齢期	E	再就職では、身につけた知識や技能を生かす必要がある。

キ 達成目標及び部会が考えた教育目標の観点並びにその方法

達成目標を設定するに当たって、一般教育課題の網目を通すことにより一般性・普遍性を兼ね備えた「足利市の教育課題」に含まれている内容項目を検討し、具体的に示した。この内容をふまえて、A, B, C, D, E のタイプ付けと、部会として望ましい職業人の資質を育成する上で重視しなければならないと思われるものを取り上げ、この教育課題を達成するための具体的な目標として達成目標を設定した。

本部会で作成した達成目標数は次の通りである。

項目	A	B	C	D	E
職業意識・職業観に関すること	9	3	2	4	5
産業に関すること	2	12	2	6	4
職業教育に関すること	2	15	0	3	0

また、「足利市の教育課題」を基に課題に含まれる内容、あるいは、達成目標を整理・統合し、教育課題の関連をふまえ次のように教育目標を設定した。

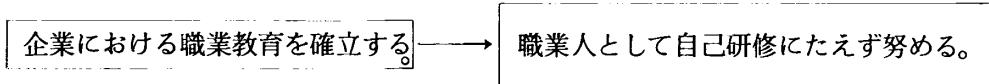
- ・ 職業意識・職業観に関すること・・・4
- ・ 産業に関すること・・・・・・・3
- ・ 職業教育に関すること・・・・2

なお、「・・・における職業教育を確立する。」などに見られるように、「教育を確立する。」という目標は、行政や事業所等が取り上げる目標であって、足利市民一人ひとりが目指す目標としてはふさわしくないということで、達成目標の分離統合を図りながら次の様に修正した。

修正 1



修正 2



IV 足利市の教育目標設定の実際

ク 具体策、教育機能連関策定の観点並びにその方法

各専門部会で検討された教育目標、達成目標を整理、統合し、人生各期における足利市の教育目標、達成目標が設定された。そこで、教育目標、達成目標を達成するための施策と現在、足利市で行われている施策を中心にして達成目標とのかかわりにおいて洗い出し、内容を検討した。そして、それらを行政自ら行うものと、市民自らが行うものとの観点から整理して具体策を策定した。

教育機能連関については、本部会では9の教育目標について、中核となる教育の場を明らかにすると共に、それを支える場との機能的な関連を検討した。特に、職場、公機関、事業所、社会教育等が必要に応じて連携し合い達成しなければならないことを明らかにした。

② 研究経過

昭和51年度

回	日 時	内 容
1	11月18日 14:00～16:40 (602会議室)	<p>委員の準備した参考資料を基に教育目標設定への足がかりを把むため、部会内の研修を通して共通理解を図り、研究構想を立てようとした。フリートーキングの中で次のような意見が出された。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 足利市では、農地が少なくなりつつあり、米作中心から、施設栽培を取り入れた農業となるだろう。○ 我が国の技術革新のスピードが速いため、国内だけを考えているのではすまされない。したがって、資源のない日本にとっては諸外国との友好を深め、我が国の平和を考えることが大切である。○ 足利市民が何を考え、何を望んでいるか、各階層の人たちよりアンケートを取り、それに基づき教育目標を設定する。○ 市民の調査では、どういう視点で、どういう内容で項目別調査するか検討し、その結果に理論背景を付ける。○ 職業人としてプライドと生きがいをもつ必要がある。○ 企業などが企業内教育を実施できないとすれば、公共団体として何ができるか、何をしたらよいか考える必要がある。○ 農業、商業の後継者は、仕事の生きがいを感じているだろうが、他の人たち（例えば、従業員）は管理体制の中に含まれ、生きがいが定まっていないのではないか。○ 研究討議に使用した資料<ul style="list-style-type: none">・「生涯教育の必然性と C A I の役割及び「機械振興会」設置の C . A . I . システムの概要」 有国肇著・「栃木県職業訓練計画」 栃木県

回	日 時	内 容
2	12月16日 14:00～17:00 (603会議室)	<p>本部会として基本的な考え方の柱のうち、次の項目について討議した。</p> <p>1 職業観の確立と職業意識の高揚について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職業人には、物を作る人、作られた物を供給する人など大きなシステムの中で働く人、手芸的な物を作ることで働く人、社会が必要としているサービスを供給する人などがいる。これらの人たちは、社会が必要とする物を供給し、そのことによって社会からも認められている存在から対人としての誇りがでてくると思われる。 ○ 職業範囲を広く考えれば考えるほどむずかしくなってしまう。 ○ 自己啓発については、他の部会に関係する問題も関連してくる。 ○ 高齢者の余暇活動、生活設計としてゆとりをもって対応しながら、いかに生きていくかを考えねばならない。 ○ 心身障害者、精神薄弱者の問題について将来職業人として生きられるような職業教育をする必要があるだろう。特殊教育の中に職業教育があるので、この事項を考えていく必要がある。 ○ 国際人としてやっていく場合には、社会や国家に関連してくることで、職業人として自分だけよければという時代は過ぎ去っている。 ○ 現在、職業人に欠けているものは何か、身につけねばならないものは何かという見方もある。 ○ 足利の職業人が職業や就職ということをどのように考えているのか。それらを高揚するにはどうすればいいか、足利市民の中で平均的なものを見つけ出すことも大切である。 <p>2 技術開発について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校の発達段階に応じて何かを作ることができるようになる。作る楽しみから技術も身につき、やがて職業意識も身についてくるであろう。 ○ 「オートメーションと人間性」の問題をどう関係づけていくか考えていく必要がある。 ○ 教育の中にもコンピューターが導入されてきている。頭のかたまらないうちに教育してきりかえていく柔軟性が必要である。 <p>前回に引き続き、本部会としての基本的な考え方の柱のうち、次の二つの項目について討議した。</p> <p>1 資源開発と活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資源のない日本においては、省資源と新しいエネルギーの開発が必要であり、このことを正しく認識し、物を大切に使うことを

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
3	1月17日 14:00～16:20 (335会議室)	<p>日常生活の中で習慣づける必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オートメーションによる大量生産方式が職場における生きがいを失わせる結果をまねいている。このことに関連して、従業員の就業意識の高揚を図ることが必要である。都市と農村では意識の格差が見られるのでこのことを考慮すべきである。 ○ 以上の問題は、生産能率との調和を考えねばならず、日常生活の中での意識の変革を重視すべきである。 ○ 原子力エネルギーに対する考え方をどう意識づけるかが問題である。 <p>2 國際社会における産業の果たす役割について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本は貿易によって成り立っており、最も重要な問題である。 ○ 外国の風俗・習慣を理解し、国際的なマナーを身につける必要がある。 ○ 日本は貿易立国であり、世界各国との貿易による国際交流を図らねばならないため、世界平和を指向する市民性を育てる必要がある。 ○ 企業に勤める人々は、その企業に対する忠誠心ばかりが先行している。
4	2月22日 14:00～16:30 (335会議室)	<p>基本的な柱のうち、次の二つの項目について研究討議した。</p> <p>1 公害問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 産業公害について、それを出さないよう産業自体が方策を考え、最善の努力を尽くすことが大切である。 ○ 緑の町足利市は美しいところだと、市民憲章はうたっているのだから緑の保全に努力すべきだろう。 ○ 公害対策は、特に職業人としての産業公害について足利市の公害対策審議会の意向や資料等を参考にしながらまとめていく。 <p>2 女性の職業人としての立場について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 女性が職場にどんどん進出してくることを考えると、今後女性を対象にした職業教育を進めなければならない。 ○ 女性の職業意識が不足している原因には、日本の社会構造が女性を適応させるのに欠けている面がある。 <p>基本的な考え方の柱のうち、次の二つの項目について討議した。</p> <p>1 高齢者の就労対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経営技術等をマスターするには、時代に即応した教育を受けねばならない。

3 各専門部会における教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
5	3月17日 14:00～16:30 (335会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ○ これからは、在職中の職業指導が本人または会社等にとっても必要になってくる。例えば、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会社では、研究所で研究開発した結果を社内で技術研修などを通して実施している。 ・ 大学開放講座において、コミュニティースクールとして地域住民に対し協力する。 ・ これらを実現するには、市、市教委、商工会議所等と話し合い大学として実施する。 ○ 現在では、高齢者に対する職業教育を実施する機会がない。したがって、高齢者は新技術に対応する知識が十分でない。なお、高齢者は、知識先行型でなく、生きがい、趣味等も配慮した再就職を考える必要がある。 ○ 職業上、いろんな資格があるが、資格を取れる、または、それらを取る場の教育目標が必要である。 <p>2 同和教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ このことについては、本部会だけで判断するのではなく、「教育目標設定委員会」全部で進め、その結果、本部会に該当するものを審議することにしたい。

昭和52年度

回	日 時	内 容
1	4月18日 14:00～16:30 (334会議室)	<p>1 調査項目の検討について</p> <p>(1) 河野重男先生への質問事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで出てきた項目は広範囲であるため優先順位(重点項目)を決め、今後の方向を決めていくこと。 ・ 総まとめとしてできあがった時点での使用目的、運用等によって深さ、内容等がかかわってくる。学校教育の中で行う職業教育、職業人となってからの職業教育との一連の結びつきについて聞く。 ・ 職業に関しては学校教育の分野と重複することが多いが、調査対象について聞くこと。 <p>(2) 他の専門部会との関連内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全教育 ・ 同和教育 ・ 公害問題 ・ 國際社会 ・ 女性の職業人としての立場 <p>ただし、職業教育に関しては学校教育専門部会と関連があり重複すると思われるが、職業人としての教育専門部会では握していく。</p>

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
2	5月26日 14:30~16:30 (335会議室)	<p>1 職業人としての教育専門部会研修会について 講師 宇都宮大学教授 馬場信雄先生 題目 目標行動の分析について 講話内容の概略は次の通りである。</p> <p>(1) 目標行動の概念について ある刺激に対して望ましい反応を示すものを学習目標として設定しておいて、ある刺激に対して目標行動に近づくように外部から刺激を変えていく。そして、心というものを望ましい方向に改善していくことである。誰もが目標行動に到達させるためには、細かい指示を与えること。これがスマールラップの原理ともいわれている。</p> <p>(2) 目標の立て方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育的な面だけに限って考えると、二通りの立て方が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去、現在にわたる歴史的経過を経て将来像を描き、それを達成するのに必要な今日的課題を目標として作成する。 ・ 未来社会の理想像を描き、そうして描いた理想的な未来社会で現実の可能性を高めるには、今なにをしたらよいか、未来に身を置いて、未来から現在を眺めて今日的な教育の課題を導き出す。 ・ 現在までの足利市の流れから、こういう目標は設定されるべきであるという立場と足利市の理想的な未来像に到達するためには、今日どのような教育を生涯教育の中でやっておかなければならぬかという立場を混同しないで両面から目標は設定されるべきである。そして、教育は期待する仕事でなくて、実現する仕事であることを銘記する必要がある。 <p>(3) 目標分析についての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未来についての展望がなくてはならない。足利市について、過去、現在と歴史的経過を十分熟知した上で展望目標でなければならない。 ・ 目標は行動の形態として示されなければならないこと。 <p>(4) 目標分析のしかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードを探す。（上位の目標行動） ・ キーワードの関係を明らかにする。 ・ キーワードの中のさらに細かいキーワードを見いだす。（下位目標行動）
		<p>1 大曲市視察報告について</p> <p>2 本専門部会の教育目標設定のための目標分析について</p>

回	日 時	内 容
3	6月27日 14:00~16:30 (603会議室)	<p>G 職業人としての教養を生涯教育を通して確立する。</p> <p>G — G₁ 職業観の確立と職業意識の高揚</p> <p>G₂ 職業観の確立と職業知識</p> <p>G₃ 職業教育の確立</p> <p>G₁— 1 職業を通して生きがいをもつ</p> <p>G₂— 2 技術開発によって住みよい社会が確立できる</p> <p>3 資源の開発と活用を図り産業の発展に努める</p> <p>4 國際社会における産業の果たす役割を正しく認識する</p> <p>G₃— 5 中・高年齢者の職業教育を確立する</p> <p>6 同和教育の推進</p> <p>7 女性の職業人としての職業教育を確立する</p> <p>(G とは Goal の略記号)</p>
4	7月22日 14:00~16:30 (602会議室)	<p>1 下位目標の検討について</p> <p>(1) G₂をカットし, G₉とG₆を入れる。</p> <p>(2) G₃— G₉を「女性の職業教育の確立」と訂正する。</p> <p>(3) G₄— G₁₀を「職場における勤労觀が高められる。」と訂正する。</p> <p>(4) G₂₃— G₂₇ 「生活用品の中から最適のものが選択できる。」に訂正する。</p> <p>(5) G₈— G₅₂ 「技能を生かして趣味がもてる。」に訂正する。</p> <p>2 これからの課題について</p> <p>(1) 林業, 農業関係をどこに入れるか。</p> <p>(2) 「郷土の産業の国内における役割」をどこに入れるか。</p> <p>(3) 女性の職業教育としてどんな場があるか。</p> <p>(4) 心身障害者の職業教育について</p>
臨時	8月1日 15:00~17:00 (602会議室)	<p>1 目標行動分析の再検討について</p> <p>本専門部会各小委員会での分析をしたG₃「職業人としての職業教育を確立できる。」について再検討, 下記の通り修正する。</p> <p>G₃ < 1 企業(職場)における職業教育を確立する。 2 公教育による職業教育を確立する。</p> <p>G_{2~3} < 1 中・高年齢者の職業教育の確立ができる。 2 女性の職業教育が確立できる。 3 身体障害者, 精神薄弱者などの職業教育の確立ができる。</p> <p>2 河野重男先生への質問の回答について</p> <p>(1) 小項目になった時にも再考し, 大項目を検討し, 修正もあり得る。 そして調査後さらに検証する。</p> <p>(2) 余暇の考慮は大切なことである。</p>

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
臨時	8月1日 15:00~17:00 (602会議室)	(3) 本部会での学校教育との関連については、職業人としてのとらえ方でよい。 (4) 他の部会と違ってサンプリング抽出を考慮する必要がある。 (5) 職業人としての大事なことを足利市の職業人として考えたときに充足している面、不足している面をとらえる必要がある。充足している面についてもカットする必要はない。 (6) 労務管理者、人事管理者、家庭の主婦といった層の調査についても、第2次調査あたりで取り上げていく必要がある。
5	8月22日 14:00~16:30 (603会議室)	1 目標行動の分析検討について(下位目標のG ₁ G ₂ G ₃ の分析、検討) (1) 「G ₁ 職業意識の高揚を図り、職業観を確立できる。」についての下位目標の分析・検討の話し合い。 (2) 「G ₂ 産業について正しく認識できる。」についての下位目標の分析、検討の話し合い。 (3) 「G ₃ 職業人としての職業教育が確立できる。」についての下位目標の分析、検討の話し合い。 その他、「余暇時間の有効な活用ができる。」について下位目標の分析、検討についての話し合い。
6	9月26日 14:00~16:30 (334会議室)	1 調査項目の検討について ○ 現在までに取り上げてきた項目の下位目標の行動分析を続けてきた結果から本専門部会としては、どのような項目を設定したらよいか協議検討した。その内容については、「調査の基本内容」参照
7	10月17日 14:00~16:30 (335会議室)	職業人としての教育専門部会の各設問に対する調査4項目の文章案の検討 (例) 1 職業人としてのプライドをもつ条件として次にあげるものの中でどれが最も大切だと思いますか。 (1) 自分の適性に合った職業が選べる。 (2) 仕事に見合った報酬が得られる。 (3) 職場での働く喜びをもてる。 (4) 技能や熟練度を正しく認められる。



職業人としての教育専門部会 調査項目の検討

回	日 時	内 容
8	11月14日 14:00～16:30 (柳原小学校)	1 調査項目の検討について ○ 前回の続き、各設問に対する調査4項目の検討
9	12月8日 14:00～17:00 (601会議室)	1 調査依頼文(案)の検討について 2 集計の方法について (1) 男女別、年齢別(10代、20代・・・)、職種別で集計する。 (2) 回答用紙の作成には、回答者が理解し易いよう十分な配慮をする。 (回答例等を例示するとよい) (3) 問題用紙の前文については事務局委員で検討する。 3 意識調査全問の内容検討
10	1月17日 14:00～16:30 (335会議室)	1 全体会 調査結果の考察について 2 調査用紙等の発送作業について
11	2月17日 14:00～16:30 (603会議室)	1 アンケート用紙の整理記入について 2 コンピューター原簿に従って、男女別、地区別、業種別の確認について
12	3月13日 14:00～16:30 (603会議室)	1 アンケート集計結果の考察について 2 昭和52年度の研究進展状況のまとめについて(現況と今後の予定) (1) コンピューター処理結果のB表、D表をどのように考察し、教育目標の中にどのように位置づけるか。 (2) 余暇調査に関する分析と考察 (3) 教育目標案の作成と検討 (4) 第2次調査をどのように実施すべきか、その項目等の検討

昭和53年度

回	日時・場所	内 容
1	4月28日 14:00～17:00 (602会議室)	1 昭和53年度の本専門部会の研究見通しについて 2 一覧表等の活用による考察のしかたについて (1) 1次調査の分析、考察について • 標準偏差値で洗い出してみる。 • 偏差値5.7、7以上を拾い出してみると、これは一つの目安であって、もっと拾い出してみる。 • 全体的な考えてみた場合、目標をつくる背景が偏差値だけでは得られない。したがって、シグマでさがったものを調べて必要なものを次の段階で準備する。 3 2次調査のねらいと方法について

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
2	5月15日 14:00～17:00 (602会議室)	<p>1 1次調査のまとめの方法について</p> <p>(1) 事務局よりまとめ方について提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育専門部会作成の「足利市民1万人の声」を参考にまとめてほしい。 ・調査の基本構成 ・調査項目の一覧 ・設問ごとの調査結果の考察 ・特徴ある項目の一覧 ・関連項目の考察 <p>※ 考察する場合、憶測や推量などは排除する。</p> <p>(2) 1次調査のまとめの方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会での調査のまとめを各部会ごとに報告する。 ・本部会の報告の内容構成は次のようとする。 ・職業意識・職業観 ・産業に関すること ・職業教育 ・特徴ある項目のわけ方については 重視している項目 シグマ 5 7.7 以上 関心の低い項目 シグマ 2 0.3 以下 <p>を目安にしてわかる。</p>
3	6月30日 14:00～16:30 (602会議室)	<p>1 2次調査の調査項目の作成と検討について</p> <p>(1) 調査項目案の説明</p> <p>(2) 昭和29年の「足利市教育の一般目標」 教育課題小項目との対照についての説明</p> <p>(3) 調査項目作成と検討方法について</p> <p>(4) 2次調査項目の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業意識・職業観に関すること。(5項目) ・産業に関すること。 (8項目) ・職業教育に関するこ。(5項目)
4	7月25日 14:00～16:30 (602会議室)	<p>1 2次調査設問案の検討について</p> <p>2 余暇利用についての調査は、必要あれば第3次調査の際に検討する。</p> <p>3 表紙についての検討について</p>
5	8月21日 14:00～15:30 (602会議室)	<p>1 2次調査の集計と考察について</p> <p>(1) 集計表の見方説明 (第1表～第3表)</p> <p>(2) 自由記述の集計については1次調査の要領で処理する。</p> <p>(3) 設問の考察について</p> <p>(4) 地域教育課題を導くための資料作成について</p> <p>2 面接調査の説明について</p>
		<p>1 2次調査の考察とまとめについて</p> <p>(1) コンピューター処理結果の見方についての説明</p>

3 各専門部会における教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
6	9月26日 14:00～17:40 (602会議室)	(2) 職業意識と職業観についての説明と検討 (3) 産業に関することについての説明と検討 (4) 職業教育に関することについての説明と検討 2 面接調査の方法について 本部会独自でやる面接
7	10月30日 14:00～17:00 (602会議室)	1 地域教育課題を導くための資料について(マトリックスの検討) (1) 教育目標とその設定の内容例についての説明 (2) 各小委員会で作成した地域教育課題を導くための資料の検討 2 面接調査について (1) 調査についての基本的な考え方 • 2次調査において、「どちらともいえない」に反応したもの が多い項目 • 関心が高いのに充足度が低い項目、またはその反対 (2) 調査項目の検討 (3) 面接方法について • 本部会では、専門的知識をもっている人たちの意見を聞く。 • 面接対象は、中間管理者、従業員とに分けて聞く。
8	11月30日 14:00～17:00 (602会議室)	1 地域教育課題の摘出について ○ 各グループごとの発表と検討 2 本専門部会としての面接事項の検討について
9	12月8日 14:40～16:50 (334会議室)	1 一般教育課題の検討について 2 地域教育課題設定の理由の検討について
10	1月16日 14:00～16:30 (334会議室)	1 教育課題及びその達成目標の設定について ○ 教育課題の修正について ○ 達成目標設定について、モデルの作成 ○ 達成目標設定までのスケジュールの説明 2 面接調査について 1 教育課題及び達成目標の検討、修正について ○ 各グループの代表者の発表と検討、修正
11	2月8日 14:00～17:00 (334会議室)	2 他の専門部会との関連内容の検討について ○ 関連内容として • 職業人として教育専門部会の教育課題の「6、7」と家庭人 としての教育専門部会の「1」、学校教育専門部会の「26」 が関連する。 1 他の専門部会との合同会議について

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
臨時	2月26日 14:00～17:00 (331会議室) (四専門部会 合同会議)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の専門部会の立場からも検討してもらいたい内容について理解を求めるため、他の三つの部会ごとに協議し、教育目標設定の共通理解を図った。 ○ 他の専門部会と関連を図った達成目標数は次の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育専門部会 5項目 ・ 市民としての教育専門部会 3項目 ・ 家庭人としての教育専門部会 12項目
12	3月9日 14:00～16:15 (602会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課題及び達成目標について他部会関連内容の討議 <ul style="list-style-type: none"> ○ 達成目標一覧表における○印及び●印の項目について検討 2 達成目標の重要度の検討について <ol style="list-style-type: none"> (1) 意識調査、教育目標との関連及び本部会の考え方等から、特に重要と思われる項目をあげる。 (2) 「特に重要」についての確認

昭和54年度

回	日 時	内 容
1	4月27日 14:00～17:05 (602会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 昭和54年度の研究の進め方について <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の本専門部会の仕事内容について 2 達成目標にかかわる具体策・教育機能連関の基本的な考え方との検討及び分担について 3 現在、足利市において行われている施策について
臨時	5月25日 16:00～17:00 (602会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 具体策の施策について <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループで検討している具体策策定のための施策について情報交換と問題点の討議
2	6月4日 14:00～16:30 (602会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 具体策の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体策の内容の検討（各グループごと） 2 発達期における教育課題、達成目標試案との関連について <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係ある達成目標の抽出
3	8月24日 14:00～17:00 (602会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間発表会の結果の報告について <ul style="list-style-type: none"> ○ 中間発表会において、職業意識に関する支持率が低かった。しかし、部会としては、重要な項目と考えていく。 2 具体策、教育機能連関策定の構想について <ul style="list-style-type: none"> ○ 統合された教育目標から、本専門部会と関連のあるものを拾い出す。
4	9月20日 14:00～17:00	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育目標、教育課題、達成目標の関連表について 2 達成目標の検討について <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育目標（試案）が統合された理由の説明

3 各専門部会における教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
4	(602会議室)	発達期に位置づけたため、多少の無理がある。 (2) 目標起草委員会の案についての説明 試案の教育目標をいくつかに分ける傾向もある。
5	10月11日 14:00～17:00 (335会議室)	1 10月の専門部会議資料の検討について (1) 本部会の目標が新しい教育目標に全部含まれているかどうかについての見直し作業 (2) 10月の専門部会議検討資料について、他の専門部会との関連について検討する。
6	11月15日 14:00～17:00 (602会議室)	1 教育目標に対する達成目標の検討について (1) 教育目標の修正とその達成目標の位置づけ 本部会とつながりがない場合は、達成目標で生かす。 (2) 修正教育目標「職業人としての自己研修にたえず努める。」の達成目標の検討 • 4つの達成目標を加える。
7	12月6日 14:00～16:30 (602会議室)	1 教育目標、達成目標の検討について 教育目標の修正 「職業人としての職業教育を確立する」「職業人としての専門的技能や資格を身につける。」にする。
8	1月31日 15:10～16:30 (研修室)	1 達成目標の専門部会への位置づけについて 2 具体策策定の在り方について 3 教育機能連関策定作業の進め方について
9	2月19日 14:00～17:00 (602会議室)	1 具体策策定の手順とスケジュールの説明について 2 達成目標の選定とグループ分担について 3 本部会内のグループ別による具体策策定について
10	3月4日 14:00～17:00 (602会議室)	1 教育目標に対する担当部会一覧について 2 グループ分担による具体策（案）について 3 具体策（案）検討の手順について ○ 各グループで原案を検討し、全体で更に検討する。

昭和55年度

回	日 時	内 容
1	4月18日 14:10～17:15 (602会議室)	1 具体策の検討について ○ 各グループからの提案とその検討 2 同和問題について、教育目標に位置づけることの提案を部会として了承する。

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
2	5月13日 14:15～17:00 (602会議室)	<p>1 具体策の検討について</p> <p>2 具体策を 基にした教 育目標の機 能連関の策 定のしかた とその作成 分担につい て</p> 
3	6月19日 14:00～17:00 (602会議室)	<p>1 教育機能 連関の検討 について</p> <p>職業人としての教育専門部会 具体策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループで作成した教育機能連関の発表と問題点の検討、特 に表現のしかたについて次の教育目標を検討した。 • 教育目標番号 59, 66, 67, 72
4	7月4日 14:00～16:30 (602会議室)	<p>1 教育機能連関の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回の残りの教育機能連関の検討
5	11月14日 14:00～16:30 (602会議室)	<p>1 「各専門部会における目標設定の実際について」の原稿内容の検 討について</p> <p>2 本発表会の持ち方について</p> <p>3 意見書（案）の検討について</p> <p>4 次年度以降の足利市教育目標具現化構想について</p> <p>5 12月2日の全体会で協議してほしい課題の提出について</p>